

尼崎市制一〇〇周年記念
新「尼崎市史」

たどる調べる尼崎の歴史 下巻

上巻 目次

第1部 グラビア・バーチャル・ツアー

尼崎の歴史資料・文化財

- 田能遺跡
- 三角縁神獣鏡 水堂古墳
- 摂津職河辺郡猪名所地図
- 木造阿弥陀如来坐像 治田寺
- 木造日隆上人坐像 本興寺
- 長洲御厨領家寄進状 大覚寺文書
- 太刀 銘恒次(数珠丸) 本興寺
- 太刀 銘守家
- 本興寺笠塔婆 開明町／石造宝篋印塔 水堂／石造十三重塔 西武庫須佐男神社／如来院石造笠塔婆 寺町／板碑阿弥陀坐像板碑・地藏立像板碑 今北 東光寺
- 大覚寺絵図 大覚寺文書
- 絹本着色涅槃図 長遠寺
- 紙本着色浄光寺縁起図
- 本興寺開山堂
- 本興寺三光堂
- 本興寺方丈
- 長遠寺本堂・多宝塔
- 長洲天満神社本殿
- 富松神社本殿
- 織田信長禁制 本興寺文書
- 荒木村重書状 長遠寺文書
- 戸田氏鉄禁制(折紙) 本興寺文書
- 尼崎藩青山氏領地調べ 加藤省吾氏文書
- 摂州尼崎城絵図 加藤省吾氏文書
- 尼崎城下絵図 寛延頃 西本町・貴布禰神社
- 築地町絵図 築地町文書

東新田村一筆限り絵図 柳川啓一氏文書

浅葱糸威一枚胸具定 櫻井神社

信使来聘自兵庫至大坂引船図 櫻井神社

近松門左衛門臺 広濟寺

長洲天満神社絵馬 景清・国俊鑑引き図

素盞鳴神社おかげ踊り図絵馬 守部

尼崎紡績全景図・ユニチカ記念館

尼信記念館

引札 醤油醸造兼酒問屋 高岡利右衛門本店

干蒸御菓子司處 丹波屋義信

大庄公民館(旧大庄村役場)

武庫大橋

阪神電鉄尼崎倉庫

尼崎市庁舎

白髪一雄 作品「大威徳尊」(一九七三年)

産業遺産 撮影・解説 小林哲朗

工場夜景 東浜ポンプ場ガスタービンポンプ

第II部 尼崎市クロニクル 一〇〇年のあゆみ

前史 原始・古代、中世、近世、近代(市制施行以前)

一九二六年(大正五)～二〇一五年(平成二七)

第III部 ガイダンス 調べる 尼崎の歴史

第III部総論 尼崎市の歴史編さん事業

第一章 尼崎の地理・地形

第一節(入門編)

『尼崎市史』にみる尼崎の地理・地形

第二節(史料編)

1 地図・絵図

2 航空写真

3 地名を調べるための基本文献

第三節(実践編)

1 地理研究の実践

中世都市尼崎の景観復元

コラム 武庫地区の地理・地形と住宅地化

地名研究の実践―「尼崎」という地名、小字調査―

2 まち歩きの実践

マップを作り まちを歩こう

第二章 尼崎の古代

第一節(入門編)

『尼崎市史』にみる尼崎の古代

コラム 阪神・淡路大震災と埋蔵文化財

第二節(史料編)

1 古代史の基本文献

2 古代史料の特質―使い方と留意点―

コラム 遺跡調査報告書

―考古図版の作り方、使い方、読み取り方―

第三節(実践編)

1 考古資料

古猪名川流域の古墳分布から読み取れること

2 古代の文献史料を読む

伝承史料から史実を引き出す

―『住吉大社神代記』の神領の歴史性を探る―

尼崎地域の王族の分布と王宮

景観から古代を読み解く

―大阪湾岸の古代景観と海人の活動―

コラム 古代の郡・郷(里)の範囲を調べる

3 調査・研究から活用へ

調査・研究をまちづくりに活かす

―猪名寺、寺町・大覚寺の事例―

下巻目次

凡例……………6

第Ⅲ部ガイドランス
調べる 尼崎の歴史（続き）

特論Ⅰ 土地形成史

図版でたどる尼崎地域の土地形成……………7

原稿作成 田中貴宏

森岡秀人

地域研究史料館（担当） 辻川敦

第二章 尼崎の中世

第一節（入門編）

『尼崎市史』にみる尼崎の中世……………20

執筆者 市沢哲

森田竜雄

地域研究史料館（担当） 中村光夫

第二節（史料編）

1 さまざまな中世史料……………30

—どんな史料があるのか—

執筆者 樋口健太郎

2 絵画史料

「大覚寺縁起絵巻」を読み解く……………49

執筆者 高岸輝

3 調査・研究から活用へ

富松城の研究……………55

—戦国期城郭の研究とまちづくりへの活用—

執筆者 村井良介

第四章 尼崎の近世

第一節（入門編）

『尼崎市史』にみる尼崎の近世……………62

執筆者 岩城卓二

第二節（史料編）

1 近世文書の伝来と活用……………78

執筆者 岩城卓二

2 村の文書……………86

執筆者 地域研究史料館（担当） 中村光夫

コラム 常吉村文書の整理……………90

—古文書整理ボランティア—

執筆者 地域研究史料館（担当） 城戸八千代

3 町の文書……………92

執筆者 地域研究史料館（担当） 城戸八千代

4 寺社の文書……………95

執筆者 岩城卓二

5 武家の文書……………97

2 中世史料はどこに残るのか……………34

執筆者 市沢哲

3 中世史料と出会うために……………35

執筆者 樋口健太郎

4 中世史料を読むために……………38

—その準備—

執筆者 樋口健太郎

第三節（実践編）

1 中世の文書と記録……………40

宝珠院文書を読む……………

—雑掌澄承はどこで殺害されたのか—

執筆者 市沢哲

コラム 史料にみえる中世……………43

—尼崎の人々と生業—

執筆者 大村拓生

コラム 中世尼崎への旅……………46

—紀行にみえる尼崎—

執筆者 樋口健太郎

執筆者 岩城卓二

コラム 尼崎藩家臣団データベース「分限」……………99

執筆者 地域研究史料館（担当） 辻川敦

6 村絵図……………101

執筆者 地域研究史料館（担当） 三浦寿代

7 町絵図……………108

執筆者 地域研究史料館（担当） 中村光夫

コラム 中在家町の空間復元……………113

—ボランティア・大学・史料館の協働—

執筆者 地域研究史料館（担当） 中村光夫

8 城下絵図……………115

執筆者 地域研究史料館（担当） 中村光夫

9 近世史研究の基本文献……………122

執筆者 地域研究史料館（担当） 三浦寿代

第三節（実践編）

1 近世文書を読む……………124

古文書の解読……………

執筆者 岩城卓二

家出帳……………128

—研究を通じて通説を見直す—

執筆者 岩城卓二

城下町尼崎の調査・研究……………134

—課題の設定、新たな史料の発掘—

執筆者 岩城卓二

西撰「三ヶ浦」の研究……………140

執筆者 河野未央	220
コラム 貴田玄蕃探索	220
執筆者 境 眞旗男	220
コラム 尼崎藩の大庄屋調べ	220
執筆者 岸添和義	220
コラム 尼崎藩の領界碑を調べる	220
執筆者 田中 敦	220
2 絵図・鳥瞰図を読む	220
尼崎城絵図の研究	220
執筆者 地域研究史料館(担当) 中村光夫	220
尼崎城下風景図を読む	220
執筆者 岩城卓二	220
第五章 尼崎の近代	
第一節〈入門編〉	
『尼崎市史』にみる尼崎の近代	168
執筆者 地域研究史料館(担当) 辻川敦	168
第二節〈史料編〉	
1 歴史的公文書	179
執筆者 地域研究史料館(担当) 久保庭萌	179
2 民間所在史料(近代の文書類)	183
執筆者 地域研究史料館(担当) 河野未央	183
3 写真・絵はがき	185
執筆者 地域研究史料館(担当) 辻川敦	185
4 近代の刊行物	189
『尼崎市史』にみる尼崎の現代	228
執筆者 地域研究史料館(担当) 辻川敦・中村光夫	228
第二節〈史料編〉	
1 現代の歴史的公文書	228
執筆者 地域研究史料館(担当) 坂江愛	228
2 民間所在史料(現代の文書類)	230
執筆者 地域研究史料館(担当) 河野未央	230
3 現代の写真史料	232
執筆者 地域研究史料館(担当) 久保庭萌	232
4 現代の刊行物	235
執筆者 地域研究史料館(担当) 辻川敦	235
5 聞き取り調査の方法	237
執筆者 山口 覚	237
第三節〈実践編〉	
1 現代史料と研究	241
現代尼崎の工業史を解明する	241
執筆者 地域研究史料館(担当) 辻川敦	241
戦後初期尼崎における公共建築物建設の背景をさぐる	245
執筆者 船曳悦子	245
2 体験・回想・聞き取り	250
同郷者集団の調査	250
執筆者 山口 覚	250
3 調査・研究から活用へ	254
アクション・ペインター白髪一雄と尼崎	254
執筆者 妹尾 綾	254

— 『尼崎市史』以前の市村史誌・郡誌—	191
執筆者 地域研究史料館(担当) 辻川敦	191
5 日記・手紙・回想	191
執筆者 地域研究史料館(担当) 久保庭萌	191
第三節〈実践編〉	
1 近代史料と研究	193
新聞からみる尼崎の政治	193
— 大正期を中心に—	193
執筆者 蒲谷和敏	193
多国籍企業リーバ・ブラザーズの極東戦略と尼崎	197
執筆者 山内昌斗	197
コラム 土族会の史料	199
執筆者 岩城卓二	199
2 体験・回想・聞き取り	201
都市化を調べる	201
執筆者 沼尻晃伸	201
ろうあ産業戦士	206
— 手話「尼崎」を読み解く—	206
執筆者 大矢 暹	206
3 調査・研究から活用へ	210
近代建築の調査と活用	210
執筆者 笠原一人	210
第六章 尼崎の現代	
第一節〈入門編〉	
コラム 白髪一雄と芦屋	259
執筆者 大槻晃実	259
特論2 文化財・民俗	
1 尼崎の文化財・民俗	262
執筆者 羽間美智子	262
地域研究史料館(担当) 辻川敦	262
コラム 教育委員会の文化財調査	266
執筆者 益田日吉	266
2 歴史研究と民俗学	268
執筆者 大江 篤	268
特論3 尼崎の歴史・文化財施設	
1 地域研究史料館を利用する	273
執筆者 森本米紀	273
2 文化財収蔵庫・田能資料館	275
執筆者 横地悦子	275
下巻執筆者一覧／奥付	

凡 例

部・章・節の構成

- 1 本書は三部構成とする。
- 2 第I部「グラビア・バーチャル・ツアー」「尼崎の歴史資料・文化財」は、国・兵庫県・尼崎市指定文化財など、尼崎地域の各時代・分野を代表する歴史資料・文化財の画像に解説を付して掲載した。
- 3 第II部「尼崎市クロニクル」「二〇〇年のあゆみ」は、冒頭に市制施行以前を簡略にまとめた年表を付したうえで、市制施行の大正五年（一九一六）から平成二十七年（二〇一五）までの年表を原則として一年一頁にまとめ、他の年より掲載事項が多い昭和二〇年（一九四五）、平成七年（一九九五）、平成一七年（二〇〇五）については一年二頁とした。
- 4 第III部「ガイダンス」調べる「尼崎の歴史」は、総論、地理・地形及び古代・中世・近世・近代・現代という時代・分野別の六章、土地形成史、文化財・民俗及び歴史・文化財施設を扱う特論により構成する。各章は、各時代・分野の研究史を整理するとともに尼崎市の歴史編さん事業を総括する第一節（入門編）、史料の種類や使い方を解説する第二節（史料編）、具体的な調査事例を通して調査・研究の方法・手順を示す第三節（実践編）により構成する。

漢字・かな・ふりがなの表記

- 1 原則として常用漢字（新字体）・現代かなづかいを用いたが、歴史的用語・人名等固有名詞の一部について、これにしたがわなかった場合がある。
- 2 難読と判断した用語について、原則として掲載項目における当該用語の初出にふりがなを付した。

年表記

- 1 年表記は一部の項目を除いて日本年号を基本とし、原則として掲載項目における当該日本年号の初出に西暦年を（ ）で括弧表示した。
- 2 明治五年（一八七二）以前の月日の表記は太陰太陽暦、明治六年（一八七三）以降の月日の表記は太陽暦を用いた。太陰太陽暦の月日にかかる日本年号に西暦年を付す場合は、太陰太陽暦と太陽暦のずれを考慮し、当該日が属する西暦年を正確に表記することを原則とした。

- 3 第II部の（日本と世界のできごと）に掲載した日本国外の事項は現地の月日を記載した。ただし、一九四一年（昭和一六）の「アジア太平洋戦争開戦」については日本国内の月日を記載した。

史料所蔵者・作成者等の記載

文書史料等の所蔵者、写真史料の撮影・提供者等は原則としてそのつど記載した。ただし所蔵機関が市立地域研究史料館である場合及び、写真史料の撮影者が尼崎市史編修室・市立地域研究史料館・市広報担当課である場合、一部を除いてその旨の記載を省略した。

引用・参照・参考文献の表記と記載省略

- 1 引用・参照・参考文献の表題は、原則として原史料の場合「」、刊行物の場合『』、掲載論文の場合「」で括弧表示した。
- 2 項目ないし小見出しの末尾等に、必要に応じて参考文献を掲げた。ただし煩雑を避けるため、『尼崎市史』『尼崎地域史事典』『図説尼崎の歴史』を参考文献とすることは省略した。
- 3 引用・参照文献等に『尼崎市史』『尼崎地域史事典』『図説尼崎の歴史』及び『尼崎市史紀要・市立地域研究史料館紀要』『地域史研究』をあげる場合、刊行主体等の書誌情報記載を適宜省略した。

引用・参照・参考文献記載において刊行主体等の書誌情報記載を省略した文献

- 『尼崎市史』 尼崎市刊行
- 本 編 第一巻～第三巻 一九六六～一九七〇
- 別 冊 『尼崎の戦後史』 一九六九
- 史料編 第四巻～第九巻 一九七三～一九八三
- 別 編 第一〇巻～第二三巻 一九七四～一九八八
- 『尼崎地域史事典』 尼崎市刊行 一九九六
- 『図説尼崎の歴史』 上下巻 尼崎市刊行 二〇〇七
- 『地域史研究』 一九七一・二〇〇七
- 第五巻第三号（通巻第一五号）までは尼崎市史研究紀要
- 第六巻第一号（通巻第一六号）以降は尼崎市立地域研究史料館紀要
- 本書刊行時（二〇一六・一〇）現在、通巻第一一五号まで刊行